

7 「発達障害児等不登校支援事業（ステップ）」の取り組みと経過について

秩父学園 地域支援課 地域療育支援室 星美弥子 村上功二 大門亜希子

【はじめに】我が国の小・中学校の不登校児童生徒数は平成 25 年度に 6 年振りに増加した。文部科学省の平成 25 年度「問題行動等調査」における不登校になったきっかけと考えられる状況について、小学校では「不安など情緒的混乱」が 35.3%、「無気力」が 23.0%となっている。中でも、発達障害が原因で不登校に至るケースが多いことを塩川宏郷氏や杉山登志郎氏が指摘している。このような問題に対して有効な支援方法をモデル発信するため、平成 27 年度より、自閉スペクトラム症や発達が気になる等で不登校（不登校気味）になっている通常学級に通う小学 3～6 年生の児童及び保護者に対し通園療育を行った。1 年半あまりの取り組みについて、その経過を報告する。

【方法】毎週水曜日、下校後に 2 時間程の支援を行い、活動内容は次の三点を柱とした。Ⅰ.《本人への支援》趣味や得意な活動を通して居場所支援を行い、自己肯定感を育むことを目指した。具体的には、個別や小集団で過ごす時間を設定し、興味関心の高い遊び・コミュニケーションスキルやその他社会性等の発達支援・ipad を使用しての感想シート記入や PC への文章入力等の活動を行った。前もって配付したスケジュールに沿って、当日は腕時計で時間を自己管理しながら参加してもらった。Ⅱ.《保護者への支援》子育ての不安や悩みに対して療育相談を実施。勉強会や家族同士が集うサロンを開催。1 週間の様子を生活記録シートに記録して振り返ってもらう。家庭訪問をする。等、家族の気持ちに寄り添い、共感して支えてきた。また、行事に本人と一緒に参加してもらい、リラックスした時間を過ごしてもらった。Ⅲ.《関係機関との連携》複数の職員で学校に出向き、本人の評価や配慮すべき点などについて情報共有の場を持った。また、サービス担当者会議に参加し、ステップでの支援の状況を報告しつつ、多くの関係機関と情報共有を行った。

【結果】27 年 5 月に開始し、28 年 1 月に通園児が 5 名となった。Ⅰ.《本人への支援》ステップでの活動を楽しみに通所を続けた結果、集団活動に意欲的に参加できるようになった・代替手段として、タブレットや PC で感想等を入力できるようになった・話を上手にまとめられるようになった等の変化がみられている。Ⅱ.《保護者への支援》同じ境遇にある家族とコミュニケーションをとることで、ストレスの発散ができた・日々の悩みを職員に話し、解決に至らなくても共有できた安心感が得られた等の感想が上がっている。Ⅲ.《関係機関との連携》学校でステップの情報を活かした対応をしてくれたことにより、本人の適応状態が向上している。また、関係各機関と情報共有することで、地域に本人・家族を支える体制が築かれてきている。

【考察】継続して登校できるようになった 1 名が、27 年 7 月に通園終了を迎えた。学習に不安があったが、ステップの活動で自分を見つめ直したり、PC 操作のスキルアップをしたりし、周囲に認められ自信を持てたことが登校に繋がったと思われる。一方、ステップには休まず通園できているものの、家庭内での状況が悪化し、家族の不安が増幅しているケースもある。通園療育で対応できる範疇を超え、個別に対応する必要も出ている。今後は、支援方法の多様性について検討していくことが求められている。